

## 「相手を攻めて崩し、そして打ち切る」

令和5年8月の剣道八段審査で見事合格された、寺本将司先生にお話を伺いました。寺本先生は熊本県のご出身で、国際武道大学卒業後、大阪府警察に奉職。世界剣道選手権大会優勝(個人、団体)、全日本剣道選手権大会優勝などの輝かしい戦歴をお持ちで、現在大阪府警に勤務のかたわら、後進の育成に尽力されています。

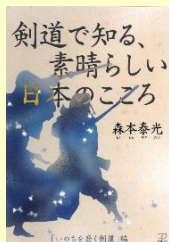
令和5年8月の剣道八段審査会(愛知)で昇段させて頂きました。これも偏に、ご指導頂いた諸先生方、先輩、同輩、後輩の皆様のお陰であると、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



私は2回目の挑戦で合格を頂きましたが、不合格からの3ヶ月間は改めて自分の剣道と向き合うところから始めました。初めての審査では、「八段審査に向けての取り組み=無駄打ちを無くし打つべき機会を捉えて打つ」という事を念頭に取り組んでいたと思います。その結果、打突の機会を捉える事は出来ず、出した技は結局の所無駄打ちにしかありませんでした。その原因として打つ事ばかり考えて自分本位の自分勝手な剣道になっていたのではないかと考えました。そこで打突の機会を捉える為に「相手を攻めて崩し、そして打ち切る」という打突前の技前の部分に目を向けて修練に励みました。そして、審査だからといって極端に形にこだわるのではなく、自分の気迫が技に繋がるようなイメージで稽古に励むようにしました。それが合格の要因に繋がったかは分かりませんが、打突に至るまでに大事な部分である姿勢や攻め方等、基本的な部分を見直す事が出来たと思います。

私は小学校1年生の時に剣道を始めましたが、当時、1年間は防具を付けず、すり足と素振りだけをしていました。基本動作の繰り返しで、「早く防具を付けて稽古をやりたいなあ」と子供心に思っておりましたが、今となっては基本を大切に剣の道に導いて頂いた先生方に深く感謝しております。

現在は職場での稽古が中心となっていますが、ご指導頂いた基本の大切さを忘れず、この拝受された段位に恥じぬように今後も精進を重ねていきたいと思っています。



### ＜お知らせ＞

森本泰光先生(剣道教士七段)の長年にわたる剣道への研鑽と少年剣道への思いが詰まった「剣道で知る素晴らしい日本の心」

①「歴史でつなぐ剣道編」 ②「いのちを磨く剣道編」を紹介させていただきます。

先着10名様に進呈いたしますので、ご希望の方は剣道連盟事務局までお電話にてご連絡ください。☎Tel 06-6351-3345

～あとがきから～

私は民間剣士で、限られた道場で稽古するのではなく、まるで放し飼いの犬のように、あちこちの道場で稽古をさせてもらいました。世間知らずの私にとって全てが新しく新鮮で、いろいろな職業の方と剣を交えることができました。その中には剣道の先生として身を立てるつもりが、戦争で敗戦に遮られ、仕方なく他の職表に就かれた方もおられました。若いときに鍛え上げた剣道を捨てられなかった方々が替におられ、熱心に私たちに指導してくださいました。そのような先生方からご指導頂いたことは実にありがたいことでした。人生の中でそういう機会に恵まれたことに感謝しています。

令和6年1月15日、ホテル阪神において新年互礼会が開催されました。  
恒例の令和5年度の顕彰者の皆様をご披露します。おめでとうございます。



- 🌸 令和5年度 全剣連剣道有功賞  
宮本 實氏
- 🌸 令和5年度 全剣連少年剣道教育奨励賞  
豊能地区 箕面粟生剣友会  
泉州地区 常盤剣道クラブ
- 🌸 令和5年度 大阪府生涯現役スポーツ賞  
金賞 楠本 正一氏  
銀賞 奥村 篤生氏  
銀賞 馬場 威夫氏  
銀賞 福西 正明氏  
団体賞 聖和剣道友の会
- 🌸 令和5年度 全国警察剣道優勝大会  
男子の部 優勝 土谷 有輝氏
- 🌸 令和5年度 全日本実業団剣道大会  
優勝 パパニックレトリックワークス社
- 🌸 剣道八段 ご昇段  
寺本 将司氏  
佐藤 博光氏



**顕彰された皆様から**

**お礼のお言葉を頂戴しています**

このたびは図らずも「生涯現役スポーツ賞 銀賞」を頂戴し誠に光栄に存じます。

これからも、日本の伝統文化である剣道の素晴らしい魅力を少しでも多くの人に知ってもらおうよう、「努力は決して裏切らない」をモットーに、少年少女剣士の育成と剣道の普及に微力ながら精進してまいります。

ありがとうございました。

福西 正明



八段にご昇段された寺本先生のお話は本誌巻頭記事で、佐藤先生のお話も近日ご紹介予定です！

**「道歌を訪ねて」～シリーズ第十弾～**

「道歌」は、道の極意を簡潔に言い表し、七五調で覚えやすいところから「剣道道歌」をシリーズで取り上げて紹介しています。皆さんからの投稿を待っています！

「茶道道歌」の中にこれを見つけ、剣道の「守破離」のことでは？と驚いたのですが、元々「守破離」が千利休の教えからきているとは知らず、お恥ずかしい限りです。

そしてもう一つ、「離」で完結するイメージしかなかった私に「本を忘るな」の一撃。「本」とは基本？理合？美しさ？・・・まだまだ「守」の域にすら達していないことを痛感しました。

(かわら版編集 WG 小林 麻理)



規  
矩  
作  
法

守  
り  
つ  
く  
し  
て  
破  
る  
と  
も

離  
る  
と  
も

本  
を  
忘  
る  
な

利  
休  
道  
歌  
よ  
り



## 海外事情シリーズ その2-①

大阪府剣道連盟 少子高齢化対策連絡会議(略称:SKR)の取り組みの一環として、「海外から見た日本の剣道」をテーマに改めて剣道の魅力を考えてみようという企画です。

第二弾として、アジア剣道クラブ(通称:アジ剣)のバンコク版報告を3回にわたってご紹介します。

私がバンコクに赴任した**1997年当初**は、数名のタイ人メンバーが所属するタイランド剣道クラブと毎週土曜日にバンコク日本人学校で生徒たちに剣道を指導する剣道サークルと2つのグループがあった。タイ人グループはウィタヤ会長が孤軍奮闘していたが、サンタクララで開催された世界大会に個人戦で1名参加するというのが精いっぱい状況であった。

日本人学校剣道サークルにどちらも息子を入れて剣道を教えていた縁で、在タイ20年現地に根を張り商売をされていた志井稔さんと共に、タイ人グループと日本人グループの交剣知愛を目的にクルンテープ剣友会(注:クルンテープはバンコクのタイ語名、天使の都の意味。以下「ク剣」)を立ち上げた。志井さんが会長、私が副会長の2名で始まった。

平日の夜、稽古場を借りるのに一苦労あり、タイの最高学府チュラロンコン大学の第2体育館を借りることができた。半分は社交ダンス部が使用していた。タイ人達との稽古が始まり体育館半分はワルツ、ルンバがかかり、半分は剣道の気合で活況があったが、数週間で大学の方から出て行って欲しいと伝えられ稽古場を探すジブシー生活が始まった。志井さんの伝手もあり、その後タマサート大学、ポピピムック大学など転々とする事となる。

**1998年**に日本人学校に佐賀の濱田先生が着任された。ク剣に賛同し会員番号3番で平日のタイ人との稽古にも参加し稽古を盛り上げていった。稽古後の第2道場では屋台の焼き肉で一杯やりながら、タイランド剣道クラブから剣道世界大会に男女共に団体戦に参加できるようにするという大きな目標を立てた。1980年代にJICA海外青年協力隊としてバンコクで剣道指導をしていた中根敬一さんがお隣の国カンボジアJETRO事務所に駐在となり、時折バンコクに来て指導してもらうようになる。徐々にタイ人メンバーが増えてきて、**2001年**にシンガポールで開催されたアセアン大会に男女チームで参戦することができた。そこにはフィリピンチームを率いて遠藤泰生さんが来ており、後にマニラからバンコクに移駐して大いにク剣、タイランド剣道クラブを盛り上げていくことになる。剣の縁は不思議なものである。

日本、フィリピン、シンガポールなどからバンコクに駐在・移駐してくるメンバーが増えてク剣も盛り上がりを見せ、**2001年**には商業施設の屋上にあるバドミントンコートが主な稽古場となる。ただでさえ暑いバンコク

で、風を嫌うバドミントンという競技の性質上窓が一つもないコートでまさに灼熱の中で、タイ人、日本人合同の稽古を行うようになる。

**2002年**には全剣連から鹿児島県の甲斐範士を団長に剣道指導をいただく好機に恵まれた。

東良美先生も参加されており、その時のご縁で**2003年の年末**からアジ剣名古屋合宿を開催いただいております。関東、関西、中京のアジ剣メンバーが名古屋に集う合宿が毎年行われ、20年続いている。

**2003年7月**、グラスゴーでの世界大会にタイランドから男子チームを出そうということになり、タイ側との協議が始まる。バンコクからグラスゴーまでの飛行機代だけでも選手に相当な負担となる。悲願の世界大会団体戦参加に向けク剣でも広く募金を募り、ようやく参加できることとなる。残念ながら予選リーグで勝ち進めず決勝トーナメントには行けなかったが、初めて世界大会に参加、準優勝した韓国チーム、ヨーロッパチャンピオンのハンガリーチームとの試合など非常に良い経験となった。余談だが、3日間の合間を縫ってNHK「まっさん」で有名になったニッカウイスキーの創始者 竹鶴正孝氏がウイスキー醸造を勉強したグラスゴー大学農学部を見学し、シングルモルトウイスキーをたくさん仕入れ、バンコクの第二道場で世界大会を肴に余韻を長く味わった。

目標はだんだん高くなるもので、**2006年**台湾で開催された世界大会には女子チームも初参加でき、また男子チームは予選リーグを勝ち進み決勝トーナメントに進出できた。**2012年** イタリア・ノヴァラ、**2015年** 日本・東京武道館とタイチームのことを書けば限りがないが、次に思い出に残る世界大会は**2018年** 韓国・仁川である。バンコクで闘病生活を送っていた志井会長の長男正行、次男正明がタイチームに参加、それを見るのが夢であった志井会長は車椅子で仁川まで観戦に来ていた。ホッとされたことであろう翌年、残念ながら天国に召された。40年以上に渡るタイランド剣道クラブ、ク剣への貢献に改めて感謝すると共に、ご冥福をお祈りしつつ筆を置かせていただく。(伊藤忠商事株式会社



繊維部門担当  
剣道教士七段 久林 融)



# 『三島・豊能・北河内地区(拡大)剣道講習会』開催報告



R6.1.21 於・高槻市古曽部防災公園体育館

令和6年1月21日（日）、高槻市古曽部防災公園体育館に於いて三島・豊能・北河内地区拡大講習会を実施、申込者は100名。

昨年から引き続きメインテーマは「少子高齢化社会における少年指導の役割と指導法」。

講師は、濱口雅行先生（主任講師）、佐藤 誠先生、吉田一秀先生、平野良樹先生。

午前中は三人の先生方の座学で始まりまして。

## ① 少年指導に関わりを持つということ

佐藤先生から『指導者はジェンダー、発達障害など個々の特徴や個性を理解したうえで、しっかり子供を見てあげる必要が大事である。できるようになったという喜びを感じさせるサポートが指導者であり、今日から明日へと続き、いいところを見つけてほめてあげるよう心掛けてほしい。西行法師の修業の先に彼岸があるのでなく、修行の途中に彼岸がある。』というお話がありました。

## ② 現在の少年剣道の指導

吉田先生から『少年時代に勝利至上主義を身につけた子供たちは、中学生になると息切れをおこし高校生頃になると燃え尽き症候群に陥ってしまう子が見受けられる。腹八分目の指導の中で、自分で考える剣道をし、指導者はヒントを与える存在でよいのではないかと。私の指導方針は、「自ら考え自ら行動できる」「練度、年齢に応じてわかりやすい技の練習」「基本を大切にする」を大切に、試合は目的ではなく目標として指導していつている。自分が子供の頃に多くの時間をかけてもらったのは礼儀作法であったことに感謝している』との事でした。

各々20分という限られた時間は短すぎ、熱の入った講話に吸い込まれ30分前後になってしまいました。

## ③ 総論：少年剣道指導について

濱口先生からの講話は、『高段者になっていくと、自分は段位が高いので偉いのだという勘違が生まれ、子供への指導が変わっていく人がいる。師弟同行という志を同じくして修行することを忘れないでほしい。また「竹刀を握る」ということについては、おおさか剣道かわら版11月号1月号に記載されているので確認いただきたい。面ひもや胴ひもを結ぶ行為は人の指の動作で行われ、子供たちはできたことの喜びや楽しみを覚える。剣道が中長期的に見て繁栄していくのは作法を中心においているからである。「仁（思いやり）・義（正しい行い）・礼（礼儀作法）・智（知恵）信（信頼）」を大切にしていきたい。』というお話でした。



午後からは、経験に応じて4班に分かれての「木刀による基本技稽古法」を実施。

九本目までを覚えるのではなく、「1、2本目を中心に竹刀は日本刀であるという観念を理解させ刀に関する知識を養う」「木刀の操作によって剣道の基本技の習得、応用技への発展を可能にする」「この稽古法の習得によって日本剣道形への移行を容易にする」という目的で各先生方が工夫を凝らし指導していただきました。（高槻市剣道連盟 大島安子）



## 【令和6年度 ビギナーズパートナー（BP）指導者養成講習会】

大阪府剣道連盟では少年剣道の推進活動に取り組んでいます。その中で、昨年より少年剣道へのアプローチとして、初心者指導に特化したビギナーズパートナー（BP）指導者養成講習会の開催を開始しました。

子どもたちに遊びや運動を通じて健康な身体づくりを行いながら、日本の伝統文化である剣道に関わってもらおうという取り組みです。専門の指導員による良いアプローチを行うことで、剣道好きな子どもを増やし、将来的には日本の剣道界の発展にもつながると期待しています。これまで2回の講習会を開催し、ビギナーズパートナー（BP：大阪府剣道連盟認定）資格受有者は52名に上ります。この機会に講習会にご参加いただき『BP』の資格を取得して、私たちと一緒に剣道を通して子供たちの成長に関わりませんか！

第3回講習会は4月22日（土）、午前9時から修道館で開催します。※HP掲載